

環境先進国

ドイツから学ぶ

87

吉田 浩巳



いては少し開きを感じま

す。特にドイツで感じたの

は、自然を身近に感じるこ

とや自然は人間だけのもの

ではなく、様々な動植物の

ためのものであるという

こと、さらに、この地球は

私たちが未来から借りてい

るだけという教育をしてい

ることでした。

フードマイレージの学習

においては、輸入した食

物は、移送距離が長く、そ

の移送にもエネルギーが使

われていることを子どもた

ちに体験してもらうため

に、実際のお肉などを例に

移送に使ったエネルギーを

プラスして、その重さや形

を変えたりし、子どもにそ

れらを持たせることによ

り、地産地消や旬のものを

旬に食べることなどの持

エネルギー問題につい

て、なぜ、地球上に住む全

ての人が取り組まなければ

いけないのかという原点に

一度立ち戻ってみたいと思

います。

まず、二酸化炭素(CO₂)

の排出は地球温暖化を引き

起こし、生態系や食料生産

等への悪影響の懸念があげ

られます。また、異常気象

による爆弾低気圧や大型竜

巻、局地的な集中豪雨など

影響が顕著に表れていま

す。これらは時には甚大な

災害を引き起こしていま

す。国連の専門機関のひと

つである世界気象気候(W

MO)は、CO₂などの温暖

化ガスの世界平均濃度が2

011年に過去最高になっ

うように進んでいないこと

を表しており、さらなる国

内外の取り組みが急務とい

えます。

また、1971年は40億

人だった人口も2011年

には既に70億人を超えてお

り、さらに増え続けていま

す。人が増えていけばそれ

だけエネルギーの消費が増

えますし、食糧問題も深刻

になっていきます。

ドイツでは、環境教育が

進んでおり、先生の資格を

持った人が小学生の子ども

たちに環境についてさまざ

まなことを教えています。

日本では環境教育において

環境NPO所属の有識者が

講師を務めるなどして積極

的に取り組んでいます。し

日本のエネルギー政策を問う④

未来から借りた地球

たと発表しています。

このことは、現時点にお

いては地球温暖化対策が思

わかっていない点にお

いては地球温暖化対策が思

わかっていない点にお

いては地球温暖化対策が思

わかっていない点にお

いては地球温暖化対策が思

わかっていない点にお

かしながら、ドイツのよう

に先生の資格を持った有識

者だけが教えている点にお

いては地球温暖化対策が思

わかっていない点にお

いては地球温暖化対策が思

わかっていない点にお

いては地球温暖化対策が思

わかっていない点にお

いては地球温暖化対策が思



フードマイレージを測定できる体験型の環境教育用教材 (ドイツ)

日本においてもドイツの
ように環境教育に力を入
れ、地球は未来から借りて
いるだけという教育を強く
推進していくべきではない
かと思えます。
また、グローバルな問題
を解決するためには「地球
はひとつ」という認識をど
れだけ多くの人が持ち、地
球規模で物事を考え判断で
きるかということにかかっ
ているといえます。
(社団法人まちづくり国
際交流センター理事長)
|| 第2、第4、第5水曜
日